

・・・・・・里山・・・・・・は水田と畑を含む風景であり、草木や川を人間が長年管理して作り上げた言わば人工の自然である。そこは二次林である雑木林に、痩せ地に強いマツやスギなどの針葉樹林が植林され、クリやカキやモモなど果樹も豊富にある。適時農民によって管理され、下草が成長し過ぎることもなく、大樹は神として祀られている。明るい陽射しにあふれ、農耕の便に富み、散策や採集にも適した場所である。それは、自然と人間の共生の歴史が生み出した調和のとれた空間であり、「森の民」である日本人独特の文化である。だからこそ、懐かしく落ち着く場所なのだ。

<叶 精二『「もののけ姫」を読み解く』(97.8) より>